

第42回日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会を終えて

(2026年7月10・11日)

京都市勧業館みやこめっせ

加藤 則人

京都府立医科大学北部キャンパス長

はじめに

第42回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会を京都市で開催しました。会場のみやこめっせは、平安神宮や南禅寺などの神社仏閣、美術館などの文化施設、琵琶湖疏水などがある、京都でも指折りの観光スポットの岡崎エリアに位置しています。

テーマ

この学術大会のテーマを「皮膚悪性腫瘍の医療—新潮流」にしました。近年、医学を含む自然科学は飛躍的な進展を遂げ、その研究成果をもとに皮膚悪性腫瘍の領域においても多くの疾患の病態や生体の反応が明らかになり、さまざまな新たな診断法や治療法が開発されてきました。これからもさらに多くの進歩が期待されます。この学術大会が、皮膚悪性腫瘍の診療の新潮流を知り、さらなる新潮流を生み出すきっかけになることを願って、講演やシンポジウムなどを企画しました。

また、皮膚悪性腫瘍の診療では、病理診断や手術などに関する知識やスキルを高めることが求められます。それぞれの分野のエキスパートから多くのことを学び、今後の診療に活かしていただけることを願って、プログラムを組みました。

プログラム

特別講演では、2027年9月に第86回日本癌学会学術総会の学術会長を務められる大阪公立大学大

学院医学研究科病態生理学の大谷直子教授から「腸内細菌叢とがん」について、東京大学医科学研究所附属先端医療研究センターの藤堂具紀教授から「悪性黒色腫のウイルス療法」について、いずれも最先端のデータをもとに、皮膚悪性腫瘍の医療の新潮流をお示しいただきました。私事ですが、大谷直子教授は大学のバスケット部の1年先輩で、30数年ぶりにお目にかかって素晴らしいご研究内容を拝聴し、万感の思いでした(写真1)。また、European Association of Dermato-Oncologyを代表してUniversity Hospital Schleswig-HolsteinのAxel Hauschild教授からは、悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の新潮流について講演いただきました。

特別企画1では、4名の皮膚悪性腫瘍領域の臨床研究のトップランナーから、それぞれが感じる臨床研究の魅力を存分に語っていただきました。特別企画2のPCL東京病理・細胞診センターの安齋眞一先生による「ある皮膚病理医が最近日々感じていること—皮膚病理医から皮膚外科医への主にお願ひ少し愚痴」では、多くのメッセージと(少しの?)愚痴をお話いただき、満場の聴衆にとってたいへん示唆に富む内容でした(写真2)。また、奥山隆平前理事長(信州大学教授)の尽力によって盤石のシステムが構築された悪性黒色腫、皮膚リンパ腫、乳房外Paget病、皮膚血管肉腫の4つの皮膚悪性腫瘍レジストリプロジェクトの現状と今後の展望について、それぞれの領域のリーダーからお話いただきました。

さまざまな分野の教育講演、CPC、皮膚外科ビデ

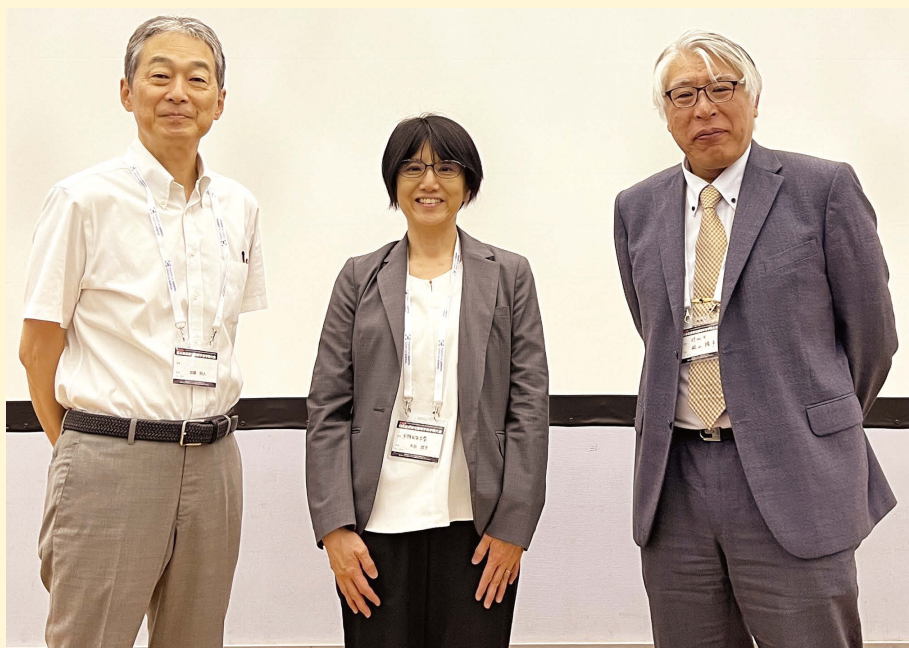


写真1 大谷直子教授(写真中央), 奥山隆平前理事長(同右)と



写真2 安齋眞一先生(写真中央), 座長の山元 修先生(同右)と

オシンポジウム, 多くの一般演題などを通して, 参加された皆様に多くの学びと未来に向けてのモチベーションが生まれたことを願います。

おわりに

祇園祭の山鉾建てが始まる時季の京都は連日の猛暑で, ドリンクコーナーの京菓子處・鼓月の千寿せんべいアイスクリームをはじめ, ガリガリ君やチョコモナカジャンボは早々に在庫がなくなり, ご迷惑をおかけしました。2日目のランチョンセミ

ナーでは, 京都の老舗すき焼き専門店・三嶋亭の「しぐれ弁当」と, 同じく京都の老舗洋食レストラン・キャピタル東洋亭の「百年洋食ハンバーグ弁当」のどちらを選ぶか, という贅沢な悩みを楽しむことができました。

最後になりますが, 本学術大会にご参加・ご協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げます。